

第一三共株式会社

<https://www.daiichisankyo.co.jp/sustainability/>



《将来に向けた取組方針》

第一三共グループは、環境経営基本方針において「すべての生命活動の基盤となる地球環境の保全を重要な経営課題」と位置付け、汚染予防、地球温暖化防止、循環型社会形成などの取り組みを通じて、生物資源の適正な利用、また化学物質などの排出を継続的に削減するなど、事業活動による生物多様性への影響を最小限にする努力を行って参りました。引き続き、私たちは生物多様性保全の重要性を認識するとともに、生物多様性条約の理念を尊重し、以下の生物多様性行動指針に基づいた取り組みを展開し、ネイチャーポジティブの実現に貢献していきます。

《具体的取組み事例》

・生物多様性関係性マップ

当社グループの生物多様性に関する取り組みや生物資源の利用状況、カルタヘナ議定書への対応状況などを国内外で調査し、当社グループと生物多様性との関係性評価、リスク・機会分析による課題抽出を行いました。

・エコロジカルフットプリント

国内グループの事業活動における全ての環境負荷について、NGOであるGlobal Footprint Networkの専門家と協業し、生物多様性に係る指標である「エコロジカル・フットプリント (EF)」を算定しています。

・希少植物の保護

館林バイオ医薬センターでは、希少植物のキンラン・ギンラン保護のため、雑木林の自生地域(約1,000㎡)を立入禁止とし、希少植物保護に努めています。継続的な活動による個体数の増加や繁殖範囲の拡大が確認されています。



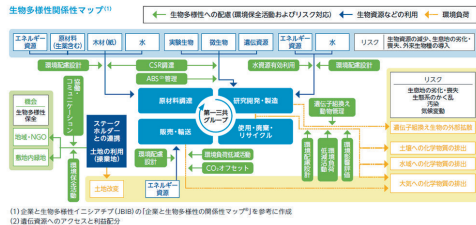
・生物多様性を育む活動

ドイツのパフフェンホーフェン工場では、ポリネーターを増やすための活動“Pfaffenhofen in Bloom”に協力し、工場敷地内約3,200㎡のエリアに多くの花々を植え、昆虫やミツバチなどの生息環境を確保しています。



《今後の展望》

当社グループは、ネイチャーポジティブの実現のために、TNFD提言に沿った分析・開示や生物多様性を保全するための目標設定、30by30に貢献する取り組み、社員の意識向上と理解促進等について推進する予定です。



(1)企業と生物多様性に関するニアアップ(2020年)の「企業と生物多様性の関係性マップ」を参考としています
(2)環境負荷へのアクセスと利用配分